



Title	医療機関における個人情報取り扱いの時の注意点
Author(s)	大磯, 義一郎
Citation	ぶっくとらっく 25(1): 4
Issue Date	2016 年 9 月
Type	出版社版
URL	http://hdl.handle.net/10271/3333
Right	

(研修会要旨)

医療機関における個人情報取り扱いの時の注意点

浜松医科大学 総合人間科学講座 法学教授 大磯義一郎

個人情報保護法が施行されて13年が経ちました。しかし、いまだに個人情報流出事故として医療機関が報道されることがしばしば見受けられます。今回は、医療機関における個人情報の取り扱いで注意すべき点、特に昨今問題となっている個人情報流出事故類型について解説します。

まず、最も頻度が多い事故類型であるUSBの紛失事故についてです。USBは小さくて軽いため、紛失する危険が非常に高く、かつ、内部に大量の個人情報が保存できることから、一度の紛失で大量の個人情報が流出してしまうという特徴があります。

都内の大学病院では、患者約2万4000人分の個人情報の入ったUSBメモリーを紛失したという事故も発生しています。また、ある1000床クラスの大学病院では、職員によるUSBの落とし物が、毎月平均10個ほどあったとのことでした。

USB紛失事故に関する対策として、一番は、USB内に個人情報を入れないことです。病院内PCからデータを保存する際に、個人情報が消える(番号等に変換される)ような電子カルテシステムを設定することなどは抜本的な対策といえます。また、医療従事者が研究等の目的で患者情報をエクセル等の表計算ソフトで管理する場合には、絶対に氏名、生年月日は入力せず、番号等で管理するよう徹底することも求められます。

今回、もう一つ紹介する類型は、SNS投稿に関する事故です。昨今のSNSの急速な普及により、誰もが世界中に情報発信できるようになりました。その結果、職員が患者情報をSNSに投稿するという事故が発生するようになりました。

芸能人やスポーツ選手が受診したということをSNS投稿することは、もちろん個人情報流出事故ですし、病院の信用も失墜しますので問題です。ただ、SNS投稿による流出事故の特徴は、他の流出事故が、「ついうっかり落としてしまった」、「なくしてしまっ



った」といった過失による事故であるのに対し、本類型は故意による流出であるため、医師であるならば秘密漏示罪(刑法134条1項)に該当し、6月以下の懲役又は10万円以下の罰金に処せられることがある点です。

本事故類型は、特に新入職員に多く発生しますので、入職時に個人情報保護に関する研修を行うことはもちろん、先輩職員からもしっかりと監督、指導し、万が一、不適切な行動を発見した場合には、直ちに是正させることが求められます。

(以上要旨)